






II. 音部記号

(表 2)

表 2 の記号

	⋮ ⋮ ⋮	ト音記号；高音部記号
	⋮ ⋮ ⋮	左手譜表にあるト音記号
	⋮ ⋮ ⋮	ヘ音記号；低音部記号
	⋮ ⋮ ⋮	右手譜表にあるヘ音記号
	⋮ ⋮ ⋮	ハ音記号；ビオラの為のアルト記号、 あるいはコントラバスの為の高音記号
	⋮ ⋮ ⋮ ⋮	第 4 線上のハ音記号；テノール記号
	⋮ ⋮ ⋮ ⋮ ⋮	小さな 8 が上部についたト音記号
	⋮ ⋮ ⋮ ⋮ ⋮	小さな 8 が下部についたト音記号

2-1

点字における音部記号は、墨字のように音の高さを決定するものではないが、音部記号の知識は五線楽譜をしっかりと理解する上で、重要である。墨字では音部記号は各段の冒頭に書かれている。点字で音部記号が記されるのは通常、音部記号が変わらない限り、曲の冒頭だけである。

2-2

鍵盤音楽以外のすべての点字楽譜に、音部記号を使用している国もある。それ以外の国々では、常に同じ音部記号で演奏するヴァイオリンのような楽器には、音部記号を省略している。チェロのように音部記号が変わる楽器の場合、音部記号に関する情報は教材において重要である。

2-3

音部記号の後の音符には、音列記号を付けなくてはならない。

2-4

音部記号の次に続くものに1・2・3の点のいずれかがある時は、音部記号の後に3の点を打つ。

2-5

墨字において、高音部記号が低音部譜表に記されていたり、低音部記号が高音部譜表に記されている場合には、上記の⠠⠠⠠と⠠⠠⠠の書き方は、晴眼者の生徒を持つ教師にとって、非常に役に立つ。例15-14を参照せよ。

表14の記号

- ⠠ 不完全小節のためのハイフン

2-6

音部記号は、譜表のどの線上にでも書くことが出来る。どの線上に音部記号が書かれているかを示すために、音部記号の最後のマスの1・2・3の点の前に、次に示すように音列記号を付ける。

例2-6

The image shows musical notation on a staff with Braille notation above and below it. The Braille notation uses the 1-2-3 dot pattern to indicate the clef position. Above the staff, there are three groups of Braille: the first group is on the first line (C-clef), the second group is on the second line (C-clef), and the third group is on the third line (C-clef). Below the staff, there are three groups of Braille: the first group is on the first space (F-clef), the second group is on the second space (F-clef), and the third group is on the third space (F-clef). The musical staff itself shows a sequence of notes and rests, with a double bar line in the middle.

2-7

小さな8の字が下部についている音部記号は、実音は書かれた音より1オクターブ低い音であることを示し、上部に8の字がついた音部記号は、実音は書かれた音より1オクターブ高い音であることを示している。音部記号の上や下に書かれた16の字は、実音は2オクターブ上か下であることを示している。

例2-7は、リュートの為の楽譜である。音部記号では、実音は1オクターブ低いという事を示しているが、音の高さは墨字で書かれている通りに点訳されている。

例 2-7

